作成日：2026 年 11 月 13 日

視察報告書

所属会派	おかや未来研究室	氏　名	今井浩一
視察の名称	会派「おかや未来研究室」行政視察		
日程	2026 年 11 月 10 日		
視察要点等	水木しげるを核としたまちづくりの現状と課題（鳥取県境港市）		

※鳥取県境港市を訪問。水木しげる記念館の木下雄一 ゼネラルマネージャー、境港市産業部観光振興課の松本昭児 課長、境港市議会事務局の佐野洋一郎 調査庶務係長に御案内いただき、お話を伺いました。

【概要】
鳥取県境港市の水木しげる記念館を訪問し、市観光振興課と記念館の担当者から、水木しげるロードの整備経緯、記念館の展示と運営、商店街や著作権者との連携について説明を受けた。質疑では、来訪者を地域での消費につなげる仕組みや、岡谷市のイルフ童画館との交流の可能性について意見を交わした。

【内容】
1. 視察の背景と目的
地域ゆかりの作家の作品を、どのようにブランド化し、文化施設の展示や中心市街地の活性化にどう生かせるかを学ぶために視察した。特に、武井武雄の作品を紹介するイルフ童画館と童画館通りを念頭に、文化施設と商店街を結ぶ工夫、行政と民間の役割分担、来訪者の回遊や消費を把握する方法に着目した。

2. 視察内容・講話要旨
① 水木しげるロードの整備と商店街の変化
平成 5 年（1993 年）に 23 体の妖怪ブロンズ像から始まり、市民や全国のファンによる寄贈などを通じて、JR 境港駅から記念館までの約 800 メートルに 178 体が並ぶようになった。平成 30 年（2018 年）の改修では、車道を一方通行にして歩道を広げ、像をテーマ別に再配置した。夜には妖怪の影絵やライトアップを楽しめる。沿道では、既存店舗が土産物店などに業態を変え、時間をかけて通り全体で来訪者を迎える形ができてきた。

② 記念館の再整備と指定管理
平成 15 年（2003 年）に開館した旧館は、老朽化や耐震上の課題から建て替えられ、令和 6 年（2024 年）4 月に再開館した。再整備には、設計・建設・運営を一体で扱う DBO 方式を

採用した。旧館は市の直営で、新館は水木プロダクション、ソニー・クリエイティブプロダクツ、中山マネジメントの３社で構成する共同事業体が指定管理者として運営している。

③ 作家の生涯を伝える展示と地域での学び
常設展示では、妖怪や代表作に加え、幼少期、戦争体験、漫画家としての歩みを紹介している。戦争体験の展示は、水木氏の生涯を伝えるうえで欠かせないという家族の意向を受けて設けたとの説明があった。温湿度を管理した企画展示室では、約半年ごとにテーマを替えて原画を公開し、再来館の機会をつくっている。また、市内の小学校で妖怪の語りを伝える活動や、水木氏の戦争体験を題材にした平和学習にも取り組んでいる。

3. 質疑応答と今後の展望（岡谷市への提言）
Q1. ブロンズ像のスポンサーは、どのように募ったか。
観光協会などが公募し、スポンサーが制作費を負担して、完成した像を市に寄贈する。台座には寄贈者名を掲示する。過去には 1 体 100 万円で募集した例があり、大型の像は約 300 万円の例もあった。
Q2. 記念館の運営費と再整備費は、どのように賄っているか。
視察時の説明では、市からの指定管理料はゼロで、入館料や物販などで運営している。再整備費は約 9 億 7,000 万円で、補助金などを除いた約 7 億円に相当する負担分を、指定管理者が利息を含めて 20 年間で市に支払う。指定管理の指定期間は 1 期 5 年。館内の物販は、沿道店舗との品ぞろえの重複を避けるため、記念館独自の商品を企画している。
Q3. 夜間演出は、滞在や商店街のにぎわいにつながったか。
影絵を見ようと夕方以降まで残る来訪者が増え、駅前のホテル開業も滞在型観光を後押ししたという。滞在時間がどの程度延びたかは未計測で、平日の夜は閉店する店も多い。土曜夜市や妖怪ハロウィンを地元と開催しているほか、沿道では店主の高齢化や事業承継も課題となっている。
Q4. 来訪者数や地域への経済効果を、どう評価しているか。
主な指標は、ロードの観光入込客数と記念館の入館者数である。視察時には、ロードの年間 200 万人を目安とし、記念館の入館者数はロード来訪者の約 1 割で推移してきたとの説明があった。市は再整備後に消費実態調査を行っており、今後は人流データも施策に生かしていく考えが示された。
Q5. イルフ童画館との交流は考えられるか。
岡谷市側から、平成 18 年（2006 年）にイルフ童画館で水木しげる展を開催した経緯を紹介し、武井武雄との関わりを調べ、今後の交流につなげたいと伝えた。記念館側からは、水木氏の家族にも関わりを聞いてみるとの発言があった。

4. 視察所感とまとめ

1. イルフ童画館と童画館通りを一体で考える。
   境港では、通りのブロンズ像が作品への入口となり、記念館が作家への理解を深める役割を担っている。岡谷でも、岡谷駅からイルフ童画館までの案内や、武井武雄の作品を題材にした展示・商店街の企画を組み合わせる余地がある。
2. 来訪者がどこに立ち寄り、何にお金を使ったかを把握する。
   入館者数に加え、童画館通りや諏訪湖畔への立ち寄り、滞在時間、飲食・買い物の実態を把握できれば、案内や催事の改善に役立つ。行政、文化施設、商店街が、それぞれ何を担うかを企画段階で共有したい。
3. 過去の展覧会を手がかりに、館同士の交流を検討する。
   2006 年の展示資料や関係者の記録を確認することが出発点となる。「妖怪」など両館の所蔵資料に接点のあるテーマから、学芸員同士の情報交換や共同企画の可能性を探りたい。

。